

都市高速鉄道12号線の延伸及び延伸 に向けたまちづくりに関する調査研究

調査結果概要

都市高速鉄道12号線延伸促進協議会

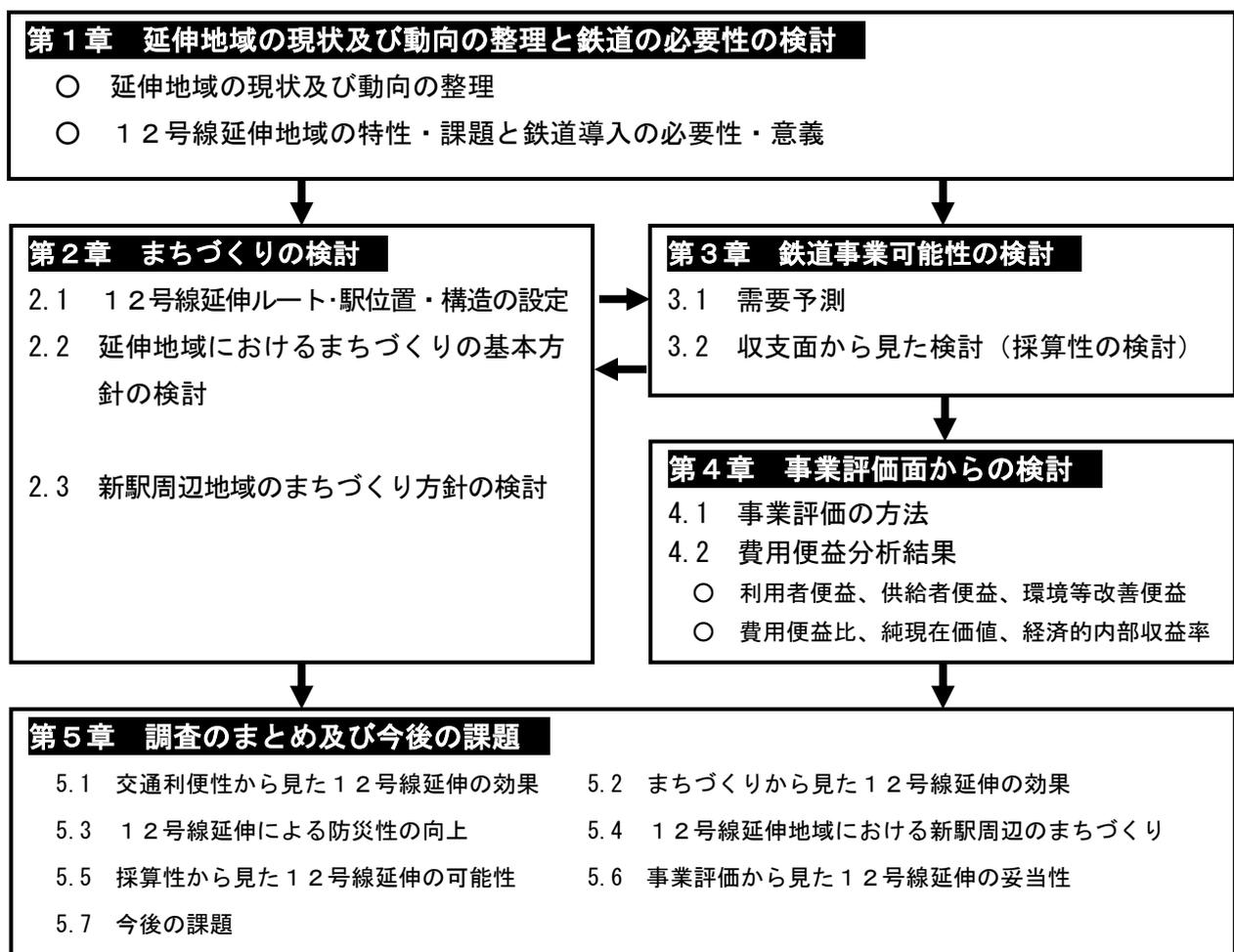
序章 調査の背景・目的及び全体構成

1 調査の背景・目的

本調査は、12号線のJR武蔵野線東所沢駅までの延伸について、延伸地域の現状や課題、鉄道導入の必要性・意義等を整理した上で、当該地域における将来のまちづくりを想定することにより、需要・収支の両面から12号線延伸の事業成立の可能性を検証し、12号線延伸の必要性や効果、また、実現に向けた課題を明らかにすることを目的とする。

なお、人口が減少傾向にある中で新線を整備するためには、相応の事業効果の存在が不可欠である。そうした点においては、当該効果を延伸地域の鉄道利便性向上といった局所的なものに限定せず、より広域的な範囲において交通的、都市構造的及び防災的な付加価値を見出すことも必要であることから、「延伸地域の特性・優位性」と「鉄道整備」の融合により、12号線延伸地域でしか実現できない「広域的な都市機能」の創出についても考察する。

2 調査の全体構成



第1章 延伸地域の現状及び動向の整理と鉄道の必要性の検討

延伸地域の現状及び諸動向を踏まえ、当該地域の特性及び交通上・まちづくり上の課題を整理するとともに、延伸地域への鉄道導入の必要性や意義について検討を行った。

1 延伸地域における交通上の課題からの検討

(1) 公共交通の利便性向上

- 鉄道空白地域の解消
- 最寄駅へのアクセス性向上

(2) 道路交通の改善

- 道路の混雑緩和
- 自動車依存構造の改善

(3) 交通基盤の強化

- 延伸地域への機能立地の促進、諸活動の活発化を図るための交通基盤の強化
- 新たな鉄軌道系交通網としての12号線延伸とその具体化
- 延伸地域のアクセス性を高める道路網の整備

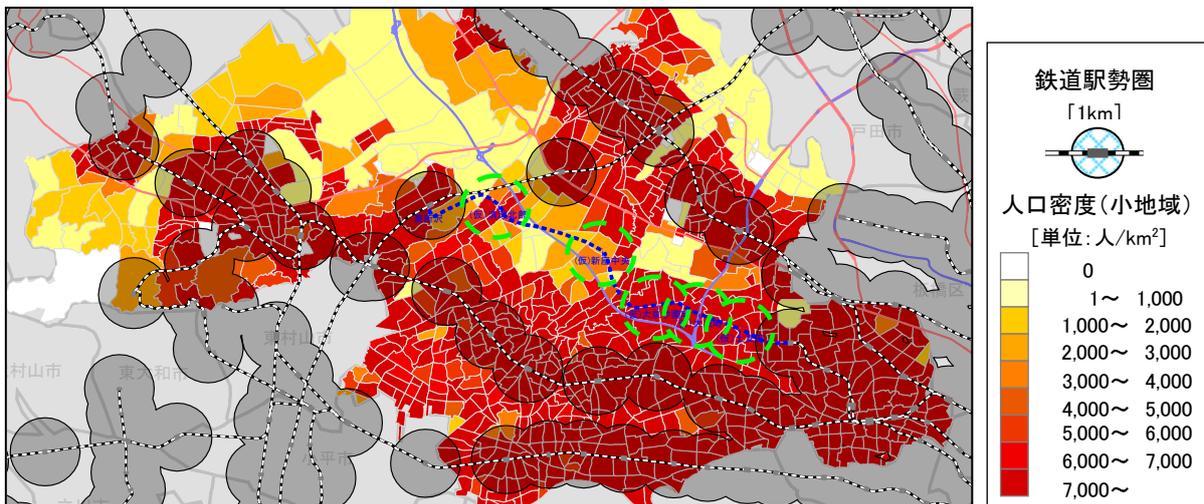


図1-1 延伸地域における鉄道空白地域の分布状況(駅勢圏1kmと想定)及び人口密度

資料)平成22年国勢調査、国土数値情報 鉄道データ(国土交通省)、全国デジタル道路地図データ(2011年)

鉄道導入の必要性・意義

- 延伸地域では、自動車利用割合が比較的高く、鉄道を利用する場合には最寄駅まで路線バスを利用しているが、道路混雑等によりアクセス状況は好ましくない。したがって、居住者の移動利便性の向上を図るため、未整備の都市計画道路の整備を推進すると同時に、道路交通状況に左右されず、定時性が確保された鉄道の導入が必要である。また、鉄道導入により、複数の交通手段の選択が可能となる。
- 鉄道導入により、自動車から鉄道への利用転換を促し、道路混雑緩和、環境改善、交通事故減少等を図ることが必要である。

2 延伸地域の地理的特性及び広域的位置付けからの検討

- 都心等の近傍に位置する地理的優位性とこれをいかすための交通基盤の確保
- 東京都及び埼玉県の上位計画を前提とした広域的視点からの延伸地域の将来像の検討

鉄道導入の必要性・意義

○延伸地域は東京都心・副都心から比較的近傍にある地理的優位性を有しており、近年の都心居住志向が進む中であっても、新市街地開発のポテンシャルが高く、また、武蔵野台地の強固な地盤上に位置し、地震災害や水害に強いまちづくりが可能な地域である。そのため、延伸地域において、都心・副都心直結の鉄道の導入と、これに合わせたまちづくりを行い、通勤通学の利便性や安全・安心に優れた新たな市街地を供給していくことが望まれる。さらに、災害に強い地域特性と関越自動車道の存在により、12号線延伸を活用した緊急輸送ネットワークの形成が可能であり、その結節点となる延伸地域において、新たな防災拠点形成していくことが望ましい。

3 延伸地域におけるまちづくり上の課題からの検討

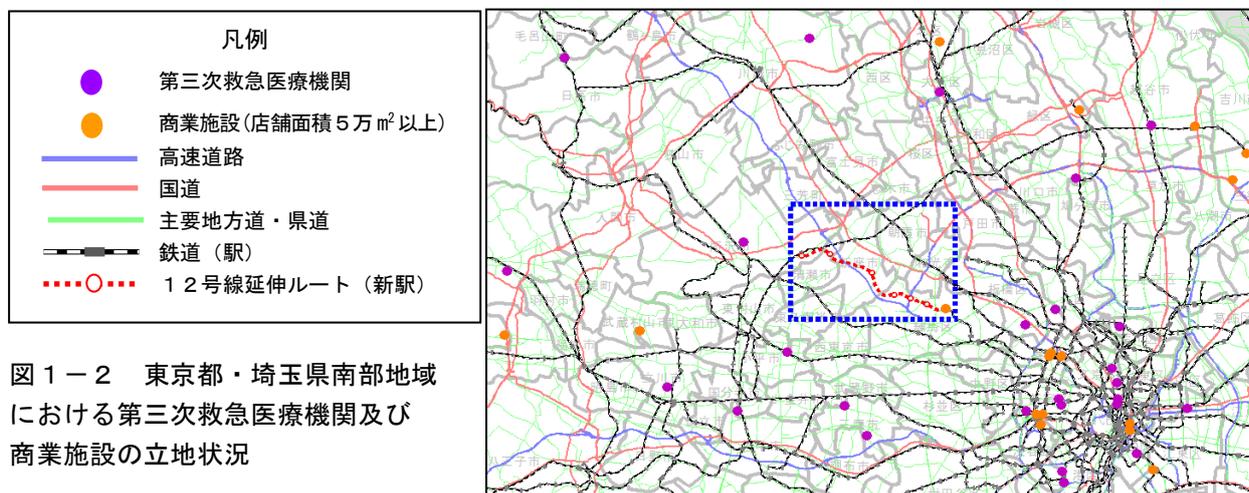
(1) 延伸地域でのまちづくりを実現するための交通基盤の確保

- 延伸地域の地理的優位性をいかしたまちづくり
- 各地域の土地利用等の現状に応じたまちづくりの必要性

【各市区の現状と課題】

- ・練馬区：既存の住宅街が広がる大泉学園町は、最寄駅が遠く住民の日常生活の不便さを解消することが課題
- ・新座市：市域の南北に市街地が形成されている一方で、中央部には市街化調整区域が広がっており、市域全体において自然環境の保全と都市機能の充実をバランスよく計画的に進めていくことが課題
- ・清瀬市：大規模団地の更新等や、市北部地域における生活機能の拡充を図っていくことが課題
- ・所沢市：東所沢駅周辺地区はまちの基盤は整備されているが、市東部の拠点として活性化を図ることが課題

- 主要施設の立地誘導による生活の利便性の向上



資料) 国土数値情報 鉄道データ(国土交通省)、全国デジタル道路地図データ(2011年)

(2) 関連計画との整合性確保

- 総合計画及び都市計画マスタープランでのまちづくりの位置付けとの整合性確保
- 緑の基本計画との整合性確保
- まちづくりに当たり、具体的な土地利用方針とその開発規模等の検討が必要

鉄道導入の必要性・意義

○既存市街地における鉄道空白地域の解消とまちの更新、新たなまちづくりの実現、生活機能が集積した拠点の形成など、それぞれの地域の目標を実現していくためには、高い移動性を有した交通基盤が必要である。12号線延伸は、これらに答え得るプロジェクトであり、導入の意義は大きい。また、鉄道を導入することで、様々な施設の立地誘導が図られ、日常生活の充実に資することができる。

4 延伸地域を取り巻く社会・経済情勢からの検討

(1) 人口動向

- 今後の人口減少、高齢化に対応したまちづくりの検討
- 多様な世代が居住するコミュニティ形成

(2) 財政面

- 投資的経費が縮小する中で社会基盤整備費用を確保する方策の検討

(3) 環境面

- 依然として影響の大きい運輸部門の環境負荷の抑制

(4) 防災性の向上

- 地震災害時等における鉄道路線相互の代替性確保
- 災害に強い地理的条件、関越自動車道や陸上自衛隊朝霞駐屯地、埼玉県新座防災基地の存在をいかした緊急輸送ネットワーク化、防災拠点の形成

(5) 交通安全

- 交通事故減少のためのより安全性の高い交通環境への改善

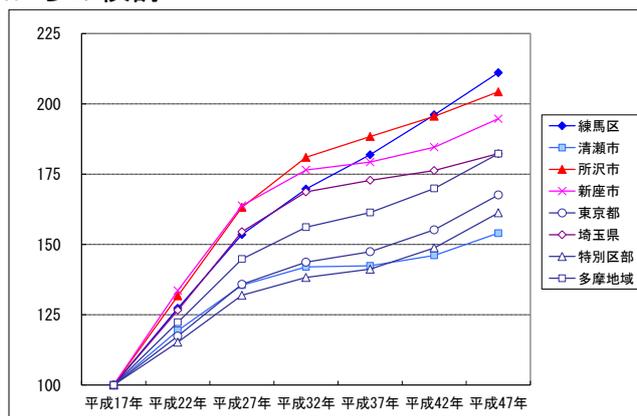


図1-3 将来推計人口（65歳以上）（平成17年を100とした場合）

資料）「日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）」
（国立社会保障・人口問題研究所）

鉄道導入の必要性・意義

- 今後の生産年齢人口の減少、高齢化が進む中では、魅力あるまちの創造、多様な世代が居住するコミュニティの形成が必要である。特に、鉄道空白地域では高齢化が顕著であり、新たな転入の促進、新たなまちづくりが喫緊の課題となっている。そのため、鉄道を導入することにより、移動利便性の向上を図る必要がある。
- 鉄道は、移動利便性の向上のみならず、自動車からの利用転換による温室効果ガス等の排出量削減、交通事故の削減に寄与し、環境・人にやさしく、安全な住環境を創出するため、その導入の意義は大きい。
- 12号線の延伸と、沿線への防災拠点整備、関越自動車道との接続により、広域からの緊急輸送に資するネットワークを構築することができる。また、他の鉄道路線の代替機能を果たし、帰宅困難者対策になり得る。